

文化芸術資源を活用した芸・産学官連携による地域活性化

BEPPU PROJECTの活動

BEPPU PROJECT 代表理事

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合プロデューサー

おおいたトイレンナーレ 総合ディレクター

国東半島芸術祭 総合ディレクター

文化庁 審議会 文化政策部会 委員

第33回国民文化祭・おおいた 市町村実行委員会事業 アドバイザー

山出淳也

BEPPU PROJECT

WE CREATE NEW ART SYSTEM IN THIS LOCAL SITE.

www.beppuproject.com

〒874-0933 大分県別府市野口元町 2-35 菅建材ビル2階

e-mail : info@beppuproject.com / TEL : 0977-22-3560 / FAX : 0977-75-7012

活動の拠点 — 別府市について

別府市
 人口：約12万人
 構成：第三次産業従事者 81.8%
 源泉数：全国1位 (2,217)
 ※国内総源泉数の約10分の1
 湧出量：全国1位 (毎分83,058L)
 ※2位：湯布院 (毎分44,486L)
 特徴：戦災を免れた路地の多い街。外国人居住率は全国でも上位

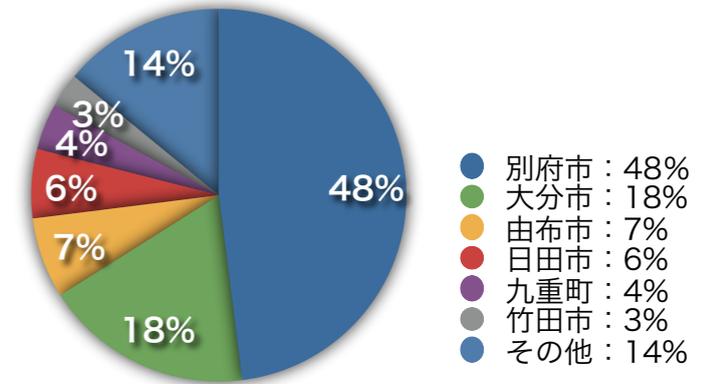


大分県地域別宿泊客数

(2012年地域別宿泊客数
大分県調査による)

別府市宿泊客：48%

別府市／大分県全体
1,914,245人／3,970,724人



① **別府市の宿泊者は男性が女性の1.5倍となっている。観光需要の全国平均値は女性客が6割を超えている。**

(平成17年4月～18年3月にかけて別府市旅館ホテル組合連合会が実施した宿泊者アンケートによる。調査対象：組合会員企業宿泊者／回収結果2072名／男性：1257名、女性815名)

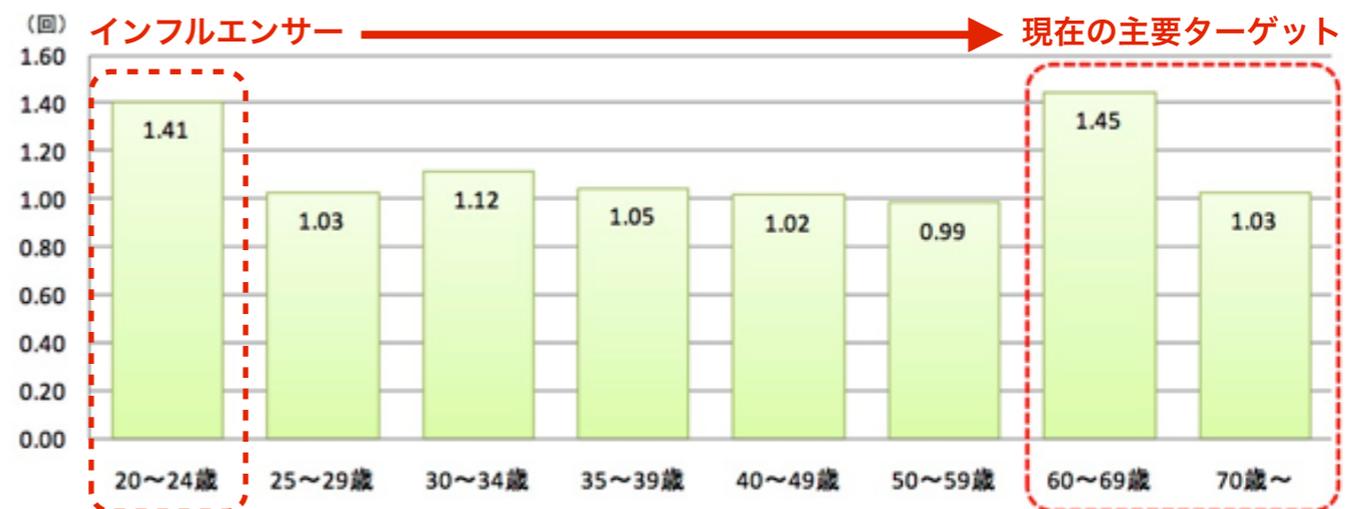
② **別府市の大半の旅館ホテルは団体客を中心とした誘致・サービス展開を行っている。70%程度が団体客とも。全国の観光動態は、観光客の72%が個人/グループ旅行客で、団体客は20%以下となっている。**

③ **ターゲットの考え方をシフトする**

2010年度の年齢層別宿泊観光参加回数を見ると、60代をターゲットにした需要拡大が期待されるが、団塊の世代が70代に突入する2017年以降、体力の低下とともに旅行回数が激減するため、シニア世代に依存する需要維持策は顧客の先細りが想定される。

代わりに今後の重要なターゲット、もしくはインフルエンサーとして見込まれるのが、20～24歳までの若年層・女性・個人客となるだろう。この層は、blogやSNSなどでの発信に長けており、情報の二次拡散が大いに期待できる。

年齢層別にみる宿泊観光旅行参加回数(2010年度)



(出典) (社)日本観光協会「観光の実態と志向」(2010年度版)を基に作成

活動の位置づけや目標

別府観光が苦手とするセグメント＝若年層・女性・個人客に向けた新たな魅力を創出するためにアートを地域経営の基本OSとして活用。活力ある市民主体都市を実現する

BEPPU PROJECTとは

地域の創造的なエンジンとしてアートを活かした課題解決や価値創出を行う

アートとは、自由なものの見方や考え方を促し「気づき」をあたえる触媒である。アート体験の提供や多様なジャンルでの創造的な課題解決を通し、豊かな心を育み誰もが自由に創造性を発揮しやすい環境を創出し、魅力的な地域の実現を目指す。

NPO BEPPU PROJECTの主な活動

文化芸術振興事業や学校へのアウトリーチ



文科省

地域の特徴を活かしたアートイベントや学校へアウトリーチ

新たな観光需要を掘り起こす情報発信事業



観光庁

アートとともに地域の魅力を紹介する新規顧客の開拓事業

移住・定住に向けた環境整備事業



総務省

クリエイター専用アパートや短期滞在施設(旅館含む)の運営

製品のブランディング・六次化事業



農水省

地域産品のプロデュース・販売を通して風土や景観を保全する

沿革

- 現在、職員14名、予算規模2.5億円程度(2014年)
- 2005年 BEPPU PROJECT発足、マニフェスト発表
- 2007年 創造都市国際シンポジウム開催
- 2008年 リノベーションスペース「platform」設立
- 2009年 別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」を開催
- 2010年 BP事業の開始、「ベップ・アート・マンス」開催
- 2013年 大分県ブランド創造事業「Oita Made」の開始
- 2016年 創造力×企業。クリエイティブプラットフォームの開始

福祉施設へのアウトリーチ・障害者アート



厚労省

福祉施設へのアーティスト派遣や障害者アート展の開催

クリエイティブ×企業による産業振興事業



経産省

企業の課題解決や価値向上、マーケット創出に創造力を活用

10年でどのようなことが起き始めているか(一部)

大分経済同友会

- *地域委員会 → クリエイティブ大分委員会に変わる
- *2011年以降、県知事が参加する経済同友会の欧州視察の目的や行程を山出が企画している
- *2011年以降、同友会が提言した15の提言書のうち、アートに関するものが13となっている

情報共有

経済界

企業がアートやクリエイティブを取り入れ始めた

- *株式会社マリンパレス → 2015年にオープンした施設“あそびーち”にアートを取り入れた(弊団体企画・制作)。2015年には県内の観光施設で最も入館者が多くなった
- *大分銀行 → 県内の生産者や製造業者をブランド化し、国内外で販売するための商社の設立をBEPPU PROJECTと協働し進めている

促進

県内における新たな産業の創出にクリエイティブを活用

- *大分県長期総合計画の柱の一つとして“クリエイティブ産業への挑戦”が位置付けられ(山出も委員会の一員)、山出がプロデューサーとなり今年度から『CREATIVE PLATFORM OITA』が9月に始まった。今後、県内企業がクリエイティブ産業に挑戦する際に積極的に支援していくことを検討している

県内におけるアートマネジメント人材の発掘と育成

- *文化庁の補助金を活用し、個人や学生を対象に、今後の県内の文化による地域活性化を担う人材の発掘と育成を行なっている。モデルはBEPPU PROJECTのスタッフとして働くことができる人材(プロデュース人材育成は今後の課題)

観光客の変化

- *アートの露出が広がったことで、若年層女性個人客が増加。従来は中高年団体男性客中心だったホテルも女性にターゲットをシフト(山田別荘、第一ホテル、花べっぴなど)

企業からの出向

- *鬼塚電気株式会社 → 今後、自社がより競争力を高めていくためには創造的な人材が必要と考え、若手社員をBEPPU PROJECTに出向させている

BEPPU PROJECT

アートや創造性を活かした
クリエイティブ・ハブとして
課題を解決

別府市の変化

- *アートが香る町・別府の実現を公約に掲げた市長が当選。アートが政策の柱になった

行政

国民文化祭おおいた2018の開催

- *従来の全国文化団体の発表が中核となる事業から大分県は方向性を変えていく。山出が全体のプロデューサーとして関わり、テーマをカルチャーツーリズムとして、地域性を活かした文化活動に観光や食文化を積極的に取り入れた新たな取り組みを進めている。そのため教育委員会だけではなく、市長部局の文化・観光・地域・商工・農水が関わる組織がそれぞれ県内全18市町村で作られた。この事業で生まれた仕組みを育て、民間や市民団体とも協働し2020や地方創生の成功につなげたい

広報的な効果

- *2005年からBEPPU PROJECTに関するメディア露出の広告換算の合計が50億円を超えた。広報費として計上してきた金額は、総額でも2,000万円程度
- *ブランド総合研究所の地域ブランド調査で、混浴温泉世界が始まる前2008年は34位だったが、2016年調査では温泉観光地としてトップの10位になった

別府

移住・定住の増加

- *2009年以降、アートに関係する移住者が100名を超えた
- *移住者による店舗が増えた。従来にないサービスの提供が実現

文化活動に従事する市民の増加

- *市民が観客から文化活動の発表者に変化。弊団体が主催する市民文化祭の10年の参加団体27から16年は87団体に増加

芸術祭の開催

- *大分県・豊後高田市・国東市が主催し「国東半島芸術祭」を2014年に開催。大分市中心市街地で2015年に「おおいたトイレンナーレ」を開催。ともに総合ディレクターは山出
- *竹田市や国東市で混浴温泉世界をモデルとしたアートプロジェクトが始まった。2005年までは大分県内で地域性を活かしたアートイベント一切開催されていなかった

他地域

視察の増加

- *県内外からの視察や講演依頼が年間平均80程度。05年まではアートに関する視察ほとんど経験がない

2015年 夏 県内全域での地域性を活かした多様な文化事業

単一事業のスプロール化ではなく、コンパクトなエリアでの独自性の高い取組を連鎖させる星座型ネットワークを構築



ベップ・アート・マンス

市民文化祭 7月18日～9月27日

混浴温泉世界

温泉街 × アート 7月18日～9月27日



おおいたトイレンナーレ2015

都市 × アート 7月18日～9月23日



国東半島のアート体験

自然 × アート 作品は常時鑑賞可能



おおいたトイレンナーレ

県内各地を絵本列車で巡る
7月～11月



関西 > 飛行機・フェリー・JR

日豊本線
九大本線
豊肥本線

あそびーち

県内のアート×地域
情報が満載

ARTrip大分

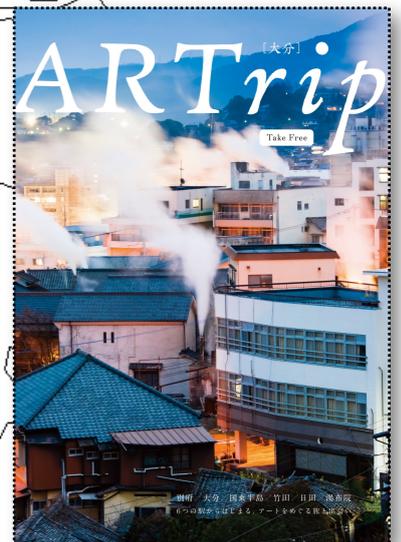
無料配布

水族館 × アート



Oita Made

大分の恵みを紹介





アントニー・ゴームリー「ANOTHER TIME XX」
 宗教的に重要な山に設置。かつて製鉄が盛んだったこの地、作品は数百年かけ砂鉄に戻り山に還る



宮島達男「Hundred Life Houses」
 縄文遺跡脇の岩壁に命の循環をテーマに作品を設置。地域住民やアジアの若者との共同で制作



困難を極めた設置は住民の知恵で実現 住民によるツアー。80分かけ山を登る 今も地域住民が作品を大切に守っている



芸術祭会期中の地域住民による”おせったい”。観客との交流で地域住民も元気に 芸術祭後に生まれたピザ窯と現在の様子

「国東半島芸術祭」(2014年秋の2ヶ月間、国東半島全域で開催)

神仏習合の郷と言われる国東半島全域で開催。恒久的に設置されている作品を鑑賞するために、時に2時間かけ海辺や山中を歩いて旅する芸術祭。12時間かけ半島をめぐるアートバスツアーも開催



定員80名、少人数でのツアーでご案内。観客には行き先を伝えない



商店街でのダンスの様子。突然ダンスが始まる



ビル屋上での多数の演者による不穏なダンスを体験



空き店舗を観客席に通りをステージに見立てダンス。通行人も出演者に



通りの裏側、普段観光客が立ち寄りえないような場所でもダンスを行う



ビル内の駐車場での金粉ショー。2012年にも実施したことで人気の企画



別府は温泉に二階が公民館という地域の特性を活かしてダンスを行う



日本で最も古い木造アーケードでのダンス。照明を含め不思議な空間創出

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」(2009春・2012秋・2015年夏の各2ヶ月間、別府市全域で開催)

美術・ダンスからなる複合型の芸術祭。NPOが中心となり産官学が連携して3年に一度開催。画像は2015年に実施した街を劇場に見たてツアーで体験するダンスイベント。毎週場所も出演者も変え実施

国際芸術祭 「混浴温泉世界」 開催データ

参加者数

事業の目的は3回とも同一(①芸術振興 ②交流人口の多様化 ③人材育成)



従来客ではない若年層女性客にリーチ

混浴温泉世界2009
2009年4月11日～6月14日
参加者：約92,000人



地域の課題とアーティストが向き合う

混浴温泉世界2012
2012年10月6日～12月2日
参加者：117,348人



別府の持続的なファン増加を目指す

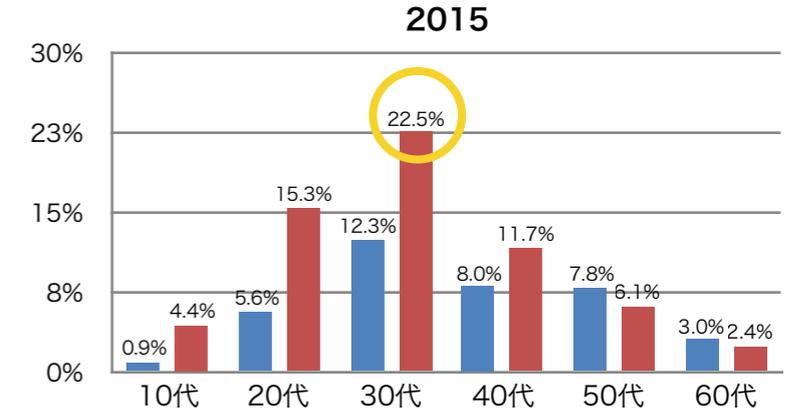
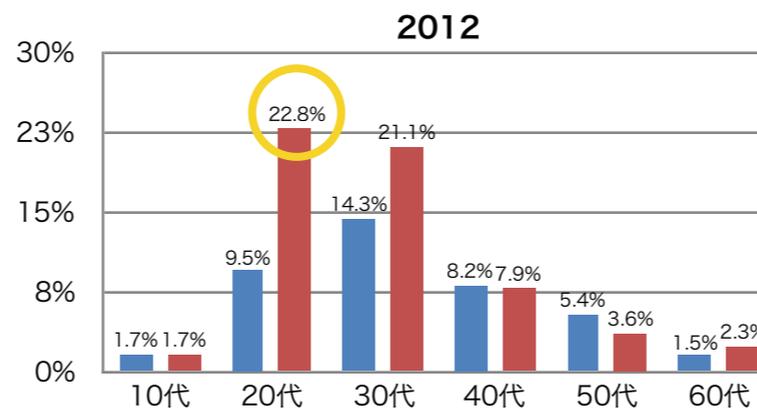
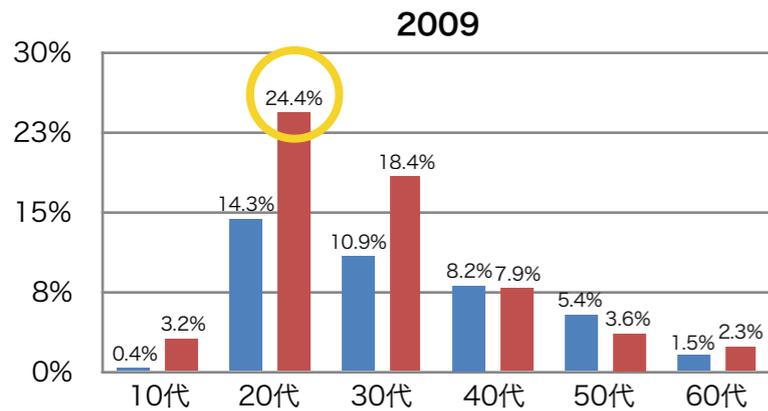
ツアー型のため参加者数減少
(ただし販売したチケット完売)

混浴温泉世界2015
2015年7月18日～9月27日
参加者：53,825人

年齢・性別

過去2回は20代女性が最も多い来場者層だったのに対し、今回は30代女性の来場者が最も多かった

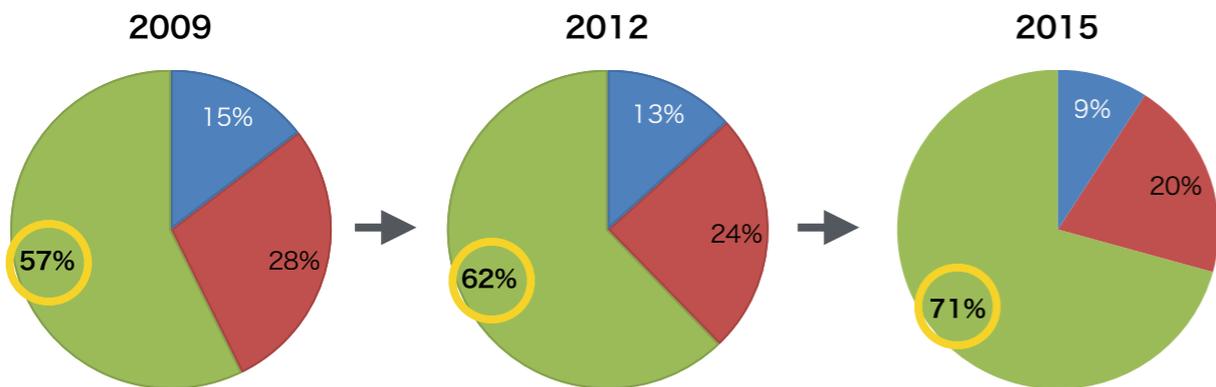
■男性 ■女性



居住地

主なターゲットは県外客

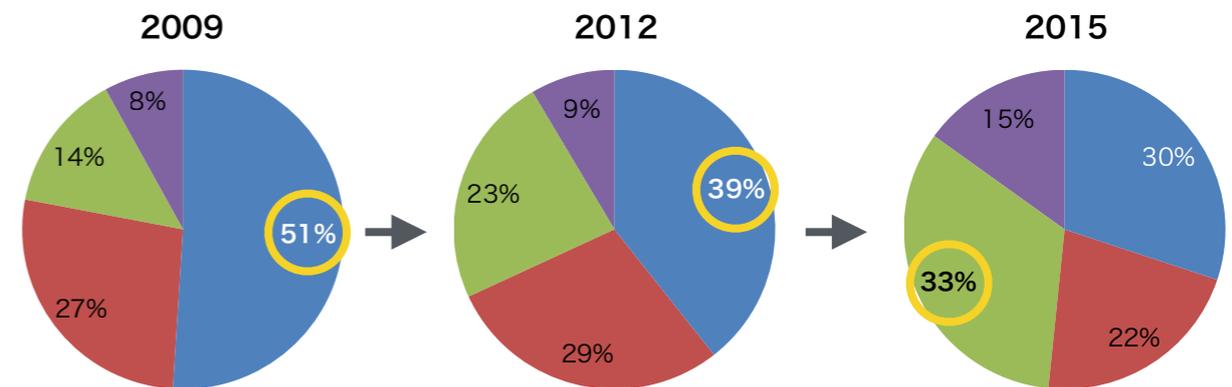
■別府市内 ■大分県内 ■大分県外



滞在期間

今回は2泊客が最も多くなった

■日帰り ■1泊 ■2泊 ■3泊～



観光消費額

12年：421,757,500円 → 15年：470,359,329円

※「別府市平成26年観光動態要覧」を基に算出(宿泊客：27,163円、日帰り客：5,815円)

課題

BEPPU PROJECTはマニフェストとともに、BSCを再定義した戦略マップと評価モデルをオリジナルで制作

経営基盤の強化

アートはマーケティングから生まれない。ニーズに変わる種まきを。独自性は企業価値を生む

- ① 明確なビジョン・最適な意思決定 → 的確な戦略・実行する力 → 自律性・創造性の向上
- ② 資金調達力 → 補助金頼みでは続かない

BEPPU PROJECTはインカムの多様化が生命線

期待すること

成功モデルが必要

事業そのもののコピーではなく、事業がどのような思考モデルで生まれたのかを他地域は学ぶ

- ① 多様なステークホルダーが関わる独自性の高い試みを選び、継続的に支援。全国に広げる
- ② 創造力あふれるプロデューサー的人材の育成が必要

別のジャンルからの参入も検討してはどうか？

省庁が連携し、オリパラ2020に向けた文化プログラムを有効に活用

參考資料

目的

大型温泉観光地別府市は、新たな時代の変化のなかで鮮度と集客力を失い、中心市街地の空洞化や老朽化が進み、この街に定住しようとする若者が減少している。そこで、市民の文化力によって、多様性を受け入れ変化に対応した地域社会を支える文化基盤の創出を実現し、魅力ある地域づくりを行う。

多くのまちづくり団体が活発な活動を展開 …> NPO法人 ハットウ・オンパク、NPO法人 別府八湯トラスト、APUに所属する学生団体など

2005年4月 別府市にアートNPO BEPPU PROJECT誕生 活動を始める

2006年11月 別府市でアートNPOフォーラム開催

全国のアート・メセナ関係者に別府市での取組が紹介される。混浴温泉世界の具体的な事業イメージの検討が始まる

実行委員会もしくは、中核となるアートNPOが主導して事業を展開

2007年10月 創造都市国際シンポジウムを開催

行政との協働で創造都市研究会「世界の温泉文化創造都市を目指して」を開催。パネリストは吉本光宏、チャールズ・ランドリー、ジャン・ルイ・ボナン、別府市長、山出淳也。その後の中心市街地活性化計画事業となる「星座型 面的アートコンプレックス構想」を山出が発表。



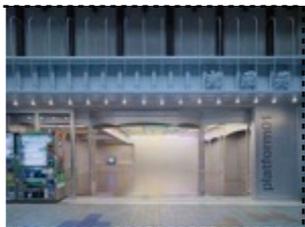
位置付けの明確化・計画作成

大分県内では初めて創造都市の取組が紹介される。ナント市との交流は現在も継続中。2013年にはナント市での国際会議(首長会議)に参加

その後、文化庁を主体とした組織、創造都市ネットワークジャパン(CCNJ)が発足。BEPPU PROJECTは立ち上げ団体と一員として参加。その後、大分県、大分市、別府市が加盟済み

2008年8月～ platform整備事業実施

「星座型 面的アートコンプレックス構想」の一事業である、「platform」を設立。創造交流拠点を分散化し回遊拠点として活用。これまで中心市街地以外で活動していた町づくり団体の活動拠点としても機能する。



拠点・活動の場づくり

2011・12年 旅手帖beppu発刊

中心市街地および別府市全体の情報発信事業として若年層女性をターゲットにしたフリーマガジンを発行(全5冊)。全国でも本誌をモデルとした取組が広がる。あわせて金券「BP」も発行。



新規顧客開拓のための情報発信・地域経済活性化

1 発行を止めて3年経った今でも全国から問合せが多い

2009・12・15年 混浴温泉世界開催

platformなどを活用し別府全域で、国際芸術祭を市民主導により開催。これまでにのべ450組程度のアーティストが参加。2015年開催時はチケットが完売、全国に別府市＝アートの町というイメージが定着。



具体的な事業の実施 国際的な発信を行う事業の創出

2010年～ ベップ・アート・マンス開催

国際的アーティストが参加する「混浴温泉世界」と対照的に市民の主体的な参画で毎年11月に開催する文化祭事業によって市民への浸透を図る。1ヶ月で74団体/87事業を実施(2013年)。イベント実施者が町づくりの担い手人材として成長。



具体的な事業の実施 市民の文化力の向上を担う事業の創出

2 ベップ・アート・マンスの継続によってさらなる市民の文化力向上促進。同時に、混浴温泉世界に変わる国内だけではなく海外に向けても訴求力の高い独自事業の造成必要

混浴温泉世界や別府での多様な文化事業が評価され、平成21年度文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を別府市が受賞。九州での受賞は別府市が初

2010年～ 清島アパートの運営

混浴温泉世界2009の一会場であった清島アパートがクリエイターのための居住スペースとして運営を開始(運営＝BEPPU PROJECT)。全国公募を行い毎年8名の創作者を受け入れる。移住促進のマッチング事業。



移住・定住モデルの実践 中長期の滞在

2010年～ 芸術家の滞在モデル事業

国内外のアーティストの滞在制作事業(アーティスト・イン・レジデンス)。2011年からは文化庁による補助事業として5年間継続。世界に向け広く公募を行い、2件の採用に対し800件を超える応募も。



移住・定住モデルの実践 短期の滞在

3 現在の受入施設(清島アパートやplatform04)の老朽化と運営体制が課題。創作者の滞在・移住希望者に対して受入施設が不足

2011・12年 「観光地型・文化芸術創造都市」推進事業 (文化庁・文化芸術創造都市モデル事業で実施)

実行委員会のみではなく市民全体での「文化芸術創造都市」実現を目指し、多様な団体連携による人材育成講座や、海外の文化機関との交流協定締結、創造都市推進人材(専門家人材)の育成、広域連携の実証実験の実施。さらに行政・大学・経済関係者による先進地視察(スペインやフランス)を行う。

位置付けの明確化・広域的な連携の枠組みづくり

知事をはじめ大学・経済関係者とともに欧州視察を行う。ナント市の行政担当者などとの意見交換会を通し、大分県内全域での創造都市・連携実現の可能性を検討

2009・2012の混浴温泉世界参加者は日帰りがメイン(40%弱)

2015年7月18日～9月27日にかけて「混浴温泉世界」、「おおいとイレンナーレ」、「国東半島アート体験」、「竹田アートカルチャー」を同時期に開催。「Artrip」を作成し各事業内容を全国に向け発信

特徴を明確化した事業展開と他地域との広域連携によって2泊がメインに

①情報発信事業

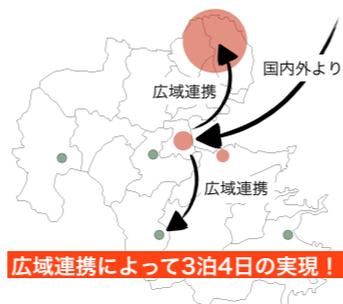
ターゲットを明確化した情報発信によって、新規客(若年層女性＝生産労働人口)やインバウンドの開拓を行う。

②芸術振興事業

市民文化祭と共に、独自のアートプロジェクトを造成。大分県のリーディングプロジェクトとして位置付ける

③定住促進事業

クリエイターの定住促進事業および海外作家のレジデンスを実施。アートの香る町実現に向け世界に別府を発信



2018～20年にかけて大分県の文化政策は大きく前進する。混浴温泉世界に変わる大分県の核となるリーディングプロジェクトの造成

アートとは自由なものの見方や考え方を促し
「気づき」をあたえる触媒である。

アートは地域の課題を「解決」しない。問題「提起」を行う。

> 目の前の風景、物事、システム・・・を別の視点で見ると、全く違う可能性があるのではないか？

文化・芸術は、都市や地域の暮らし、経済活動において

『質』を高めたり、『新たな価値』を生み出していく要素となる。

経済 アーティストの創造活動 = 常に新しい価値観への挑戦。現在のサービスには『感性価値』が必須

福祉 多様な価値が同時に共存し、その違いを認め尊重する心を育むことが、社会や人生を豊かにしていく

地域 多角的な考え方に気づくことで、地域環境や社会について見直したり、新たな魅力の発見につながる

ヒエラルキー型の産業構造から**ネットワーク型の産業構造への転換にアートを活用。**

